

つくばで輝く研究者

MAKATAYAMA Miho 眞方山 美穂 さん

国立研究開発法人 建築研究所 (BRI)

建築生産研究グループ 上席研究員 博士(工学)



実験場で

福岡県出身。九州大学工学部建築学科卒業後、同大学院工学研究科修士課程修了。1992年に建設省建築研究所に入所し、研究員として建築施工と生産技術の調査研究開発業務を担当。2003年に博士(工学)取得。現在は外壁診断の研究開発と建築プロジェクトのマネジメント技術開発を行う。

《建築物の診断》

建築物を適切に維持管理するための外壁診断技術の研究開発を行う。建築基準法で建築物の経年劣化などを調査診断することが求められているが、外壁全面の打診検査は費用負担も大きく、実施率は高くない。そのため、足場を用いることなく外壁面を自走するロボットやドローンによる外壁診断を研究開発。また、調査員の技能に依存しない定量的な目標値を用いて評価することで、診断の効率化と精度の向上を図る。外壁調査現場の人材やコストなどを踏まえた診断技術を開発し、客観的なデータを



外壁診断装置の公開実験風景

診断技術の開発で 建築物の維持保全

いた調査方法を早く実用化した。現在、建築業界では3次元形状の建築物情報モデルのBIM (Building Information Modeling) を活用した新しい建築生産の取り組みが始まり、この新技術を用いた設計・施工の仕組みに関する研究にも取り組んでいる。

《泥遊びから建材》
鹿児島県生まれ、福岡県久留米市育ち。小さい頃から泥んこ遊びが大好きだった少女は「コンクリートに興味を持ち、地元大学の工学部建築学科に進学した。二級建築士の免許は取得したが、図面やデザインよりも材料自体に興味がありコンクリート研究に没頭しました」。大学入学当時は、工学部に少い女子学生が増え始めた時代。研究に励む一方、演劇サークルでも活動した。卒業後に進学した大学院で現在の夫と出逢い、建設省建築研究所に入所した翌年に結婚。その10年

後に博士号(工学)を取得後、長男が生まれた。当時は主人も私もお仕事で忙しく、2人の実家も遠かったので子育てには苦労しました。子どもが中学生になって少し楽になり、週末には季節の移りなどを楽しむ余裕もできました。

つくばの暮らし

つくばに来てから28年。夫の仕事の都合で、最初は市外に暮らしたが、自然や教育環境が気に入って、現在は家族3人でつくばに暮らす。TX開通で便利になったので、夫は都内まで通勤しています。私も東京での会議出席が多いので助かっています。週末には夫婦で早朝ウォーキングするほか、冬は家族でスキーを楽しむなどアクティブな暮らしを楽しんでいる。



草津温泉スキー場で